



『全世界に
 神の愛の炎を
 たきつけることが
 できたなら!』
 (十字架の聖パウロ)



お知らせ

7月のミサ
 14日 第2日曜日
 28日 第4日曜日

☆7/7 (日) 北山原殉教祭
 北山原(米沢)でミサが行われます。
 酒田から柿崎圭介さんが参加します。
 ☆7/21 (日)「分かち合い」は
 「宣教司牧方針の三つの柱」の
 第二の柱「共に出向き宣教する共同体」
 について話し合い、分かち合いをします。

訂正

「分かち合い」は第2日曜とお知らせしていま
 したが、原則第3日曜に行います

7月朗読当番

7日	祭壇奉仕	西村浩太郎	21日	祭壇奉仕	荻原徹
	第1朗読	折坂志津枝		第1朗読	今野幸子
	第2朗読	齋藤純子		第2朗読	ヤグナ
14日	先唱	柿崎圭介	28日	先唱	柿崎圭介
	第1朗読	高橋泉		第1朗読	折坂志津枝
	第2朗読	佐藤浩子		第2朗読	高橋泉

7月スケジュール

7日 (日) 年間第14主日
 みことばの祭儀
 教会清掃

14日 (日) 年間第15主日
 ミサ
 話し合い

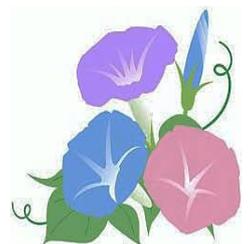
21日 (日) 年間第16主日
 みことばの祭儀 10:00a.m.
 分かち合い(終了12:00)

28日 (日) 年間第17主日
 ミサ

*ミサ・みことばの祭儀時間
 11:30 a.m.

祈禱の使徒

教皇の意向
 病者への司牧的ケア
 日本教会の意向
 難民





心のともしび

日本で古くから言い伝えられている次の話は、意味深長だと思います。

ある晩、訪れてきた旅人に主人は提灯を差し出したところ、旅人はそれを拒んだ。「私は目が見えないので提灯を点けても提灯は何の役にも立ちません」と。それに主人は答えていった。「確かにあなたには提灯入りません。けれども提灯を点けたら通行人はあなたにぶつからないでしょう。ですからこの提灯を持って行きなさい」と。盲人は提灯を手にしてその家をあとにした。

遠くへ行かないうちに、人に強くぶつかってしまった。

「君、ちゃんと見て歩きなさい。この提灯が見えないのですか」と盲人は叫んだ
「友よ、あなたの提灯の火は消えているよ」通行人は盲人に答えた。

この話を聞いた時、私はふとその教訓を自分自身に当てはめてみました。
提灯を握ったとたん盲人は気取った行動に出ます。

私も先生として、また責任を負わされたものとして、人を指導したり、戒めたりしたとき、もしかしたら私の心のともしび消えたままだったかもしれません。

肩書を持っていたけれども、大切な灯が消えかけていたのではないのでしょうか。

皆さんも私も、もったいぶったり、自信に満ちた話ぶりをしたりするまえに、反省してみましよう。

自分の心のともしびは消えかかっているか・・・・・・・・

心のともしびは消えないように心がけていよう。

Keep a light burning in my heart.

(ステファノ・デランジェラ
落ち葉「いい人生というために」より)

